昆虫先生ムネリンのたむら昆虫図鑑 NO.13

オオカマキリ

草地に生息し、カマ状に変化した前脚でバッタなどの昆虫を捕らえる。メスは交尾後、オスを捕食してしまうことが多く、これは200個もの卵が入った「卵のう」を産むためだ。植物の上で獲物を狙うところを観察しよう！

田村富士ロードレース大会

10月20日、市運動公園をスタート・ゴールとして、「第43 回田村富士ロードレース大会」が行われました。

大会当日は晴天に恵まれ、全26部門に県内外から約600人のランナーが、さわやかな秋風が吹く田村路を駆け抜けました。

大会結果は、市ホームページをご覧ください。

企業力セミナー

10月11日、市役所で福島広域雇用促進支援協議会の企業力セミナーを開催しました。セミナーでは「組織内リーダーの発掘と育成」を題材に、講演いただきました。

事業者8社、14人が参加。地域産業の発展につながる人材育成についての講演を受講しました。

福島広域雇用促進支援協議会では企業出張型のセミナーの開催も行っております。

問 福島広域雇用促進支援協議会田村窓口（田村市 産業部 商工課内）
☎61-5585

生活習慣病予防普及啓発「食育キャンペーン」

9月29日、市と田村市食生活改善推進協議会は、ヨークベニマルメガステージ田村店で、生活習慣病予防普及啓発「食育キャンペーン」を開催しました。

会場では、「減塩」をテーマにしたクイズや、減塩に関する工夫の展示、減塩商品の紹介を行いました。

参加者の中には、1日の目標摂取量の食塩量を見て「以外と少ない」などと、驚きの声をあげる人もいました。

自然の中で貴重な体験

9月28日、田村市青少年健全育成市民会議の事業として、「自然とあそぼう～田村の森を知りつくせ！～」が片曽根山森林公園で実施されました。

市内各小学校から15人が参加し、午前中はアドベンチャーゲームや火おこし体験、午後には竹を使った水鉄砲作成や丸太切り体験などの活動を楽しみました。お昼はみんなで芋煮を食べ、最後は自分たちで起こした火で焼きマシュマロを楽しむなど、日常生活では味わうことのできない体験ができました。

あぶくま洞秋まつり 2024

9月28、29の両日、あぶくま洞特設ステージで「あぶくま洞秋まつり2024」が開催されました。

地元食材を使ったさまざまなグルメや縁日コーナーなどが設けられ、家族連れをはじめ、多くの来場者が食と体験を楽しんでいました。

ステージでは、ものまねタレント「美川憲二」のモノマネショーやお笑いコンビ「クールポコ。」のお笑いライブなど、多彩な催しが行われ、来場者が盛んな拍手を送っていました。

模擬選挙「未来の田村市長選挙」

10月9日、市選挙管理委員会と市明るい選挙推進協議会は船引高校で、同校2年生約60人を対象とした模擬選挙「未来の田村市長選挙」を行いました。

高校在学中に、新有権者となる高校生の選挙への関心を育むことを目的とし、市職員3人が候補者役を務め、市の今後の課題を選挙争点に、それぞれが掲げる政策を訴えました。生徒は、市内の選挙で実際に使われる記載台や投票箱を使い、支持する候補者の氏名を書き、投票箱に投票しました。

toto 助成金活用 写真判定装置を設置

独立行政法人日本スポーツ振興センターの6年度スポーツ振興くじ(toto)助成金を活用して9月30日、市陸上競技場に写真判定装置を設置しました。この装置は、陸上競技大会で、選手がゴールする瞬間をとらえ、正確な記録・着順を判定します。市陸上競技場は、5年にトラック走路等の改修工事も行い、今回の装置設置を契機に、競技力向上はもとより、地域スポーツ活動の拠点として、一層の充実を図ってまいります。

大人の木工教室

9月29日、田村森林組合で、公民館5館合同事業「大人の木工教室」を開催し、ほぞ組を用いたイス作りをしました。

市民29人が参加。田村森林組合の職員を講師に、参加者は慣れない工法に苦戦しながら制作していました。参加者からは「工具を持つのは学生以来だったけれど楽しかった」「難しかったけれど良い時間を過ごせた」と、完成した作品に満足した様子でした。

MY DREAM マイドリーム #5

田村市産の野菜で漬物を

渡辺 恭利さん

県内外の各分野で活躍している田村市出身者を紹介するコーナー

船引町出身のビールメーカー勤務醸造家渡辺恭利さん（神奈川県）の作品が、全日本漬物協同組合連合会が漬物の日本一を決める「漬物グランプリ2024」の個人の部で、グランプリを受賞しました。渡辺さんに受賞作品の特徴や、自身が描く夢を伺いました。

Q 漬物づくりを始めたきっかけを教えてください。

A 幼いころの遊びの一つに、祖母ミツ子ばあちゃんとの漬物づくりがありました。その漬物がおやつで出てきたり、運動会のおにぎりはばあちゃんの梅おにぎりだったり、漬物は身近な存在でした。「あの漬物をもう一度食べたい」と思い、作り始めたのがきっかけです。

Q「漬物グランプリ2024」でグランプリに輝いた作品の特徴と感想を教えてください。

A「湘南大根の鵠沼魚醤漬け」という作品でグランプリをいただきました。素材や調味料など地産地消にこだわり、大根は身だけでなく、葉や皮に至るまで、一本を丸ごと余すことなく食すことで、野菜を育てている生産者への感謝を伝えられるように工夫しました。日本一になれたことは関わっていただいた皆様のおかげです。

Q 自身が描く夢、田村市民へのメッセージをお願いします。

A 田村市産の野菜で漬物を作りたい、それが新しい名物、名産品になればいいなと。次世代を担う子供たちが、「田村市ってすごいんだぞ」と自慢できるような街づくりに、漬物を通して貢献するのが夢です。田村市内で漬物ワークショップなどもやりたいですね。